

2018年インターバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っている。2018年9月18日から20日にかけて開催された北米最大の自転車展示会インターバイク展に、自振協による共同出展ブースを設け日本企業7社の出展を支援した。同展の概要を報告する。

1. 展示会概要

本年の2018年インターバイク展(INTERBIKE2018)は、米国ネバダ州リノのリノ・スパークス・コンベンションセンターにて、2018年9月18日(火)~20日(木)の3日間、開催された。本年は会場をラスベガスからリノに移転しての初開催であり、展示会の入場者数と出展者数は主催者から正式な数が公表されていないが、小売店バイヤーは昨年より28%減となった。出展社数については、展示会オフィシャル・ガイドからの集計によると本年は609社となったが、前年の出展者を同様に集計すると848社であり、前年より3割近くも減少したことになる。



展示会場内(ホール1)の様子

主催： エメラルド・エクスポジションズ

開催地： 米国ネバダ州リノ市 リノ・スパークス・コンベンションセンター

会期： 2018年9月18日(火)~20日(木)

展示会場： ホール1, 2, 3 及び 4 ※昨年はラスベガスの別会場

入場者数： 未公表 ※平成30年10月末現在

出展社数： 609社(昨年848社) ※展示会オフィシャル・ガイドより集計

本年は会場施設のホール1と2がメインの展示会場となり地元米国をはじめ欧州系の出展者を中心に出品物も多岐にわたった。実際に両ホール内を見て回ると、昨年に比べて全般的

に出展規模が縮小し完成車の出展が更に減った印象を受けた。メインホール 1&2 に隣接するホール 3 には電動自転車 (E-Bike) 関連の出展者が集まっていた。今回、我々日本 (JAPAN) ブースをはじめ中国、台湾及び韓国等のアジア諸国のパビリオンブース等、殆どのアジアからの出展者はホール 4 に配置された。

出展ブランドについては、本年はキャノンデール、ジェイミス及びユニベガ USA 等が復活したが、キャノンデールはホールではなく個室にて単独展示の形態をとっていた。同様にスラム、シュワルベ及びコンチネンタルも個室展示であった。これらの有力ブランドがメインホールにブースを構えなかったことも規模縮小を感じた一因かもしれない。一方で完成車ではサーベロ、Argon18 及びオルモ等が展示会場から姿を消し、有力な完成車ブランドの減少傾向が続いている。また、出展は続けているものの昨年より小間面積を小さくしたところも多々見られた。更にホール 4 の奥には空きスペースが広がり、出展者減少を一層感じさせる光景となった。

2. E-Bike の行方

現在、米国市場では欧州のような E-Bike ブームとは言えないが、今年も多くの E-Bike に関する出展が見られた。主な出展者としては、ボッシュ、ヤマハ、BROSE 及び BAFANG 等のドライブユニットの他、完成車では地元のラレー (アクセル) やハロー、ドイツからはリーゼ & ミュラー、ハイバイク (アクセル)、BULLS (ZEG) 及びスイスのストーマー等の欧州勢も参加し、主な顔ぶれは去年と同様であった。

更に現在、欧州委員会が中国製電動自転車に暫定アンチダンピング税を課している影響もあるのか、中国からの E-Bike の出展者も多かった。それらの小間では欧州ではブームが一服した感のあるファットバイクに電動ドライブユニットを装着した電動ファットバイクもいくつか見られた。米国市場で実際に電動ファットバイクの需要がどれ程あるのか不透明ではあるが、米国市場における E-Bike の可能性にかける各社の動きは興味深い。



電動ファットバイク

また、今回は会場横の屋外に試乗コースが設けられた。45 社のブースに 130 台を超える試乗車が用意され、約 3,000 名が試乗体験をした。しかしながら、E-MTB を手掛ける北米の完成車メーカー (スペシャライズド、トレック、ロッキーマウンテン及びコナ等) の出展がな

いため、これら有力ブランドの E-MTB 等の新商品を見ることできないのは誠に残念であった。米国の消費者に訴求し E-MTB ブームを起こすためには米国を代表するブランドの試乗車こそこの場に必要だと感じた。



屋外の試乗コースの様子

3. アウトドアデモ

今年も展示会開催前の 9 月 16 日(日)、17 日(月)の 2 日間、屋外試乗会アウトドアデモが行われた。本年の試乗会場は展示会場からシャトルバスで 50 分程の距離にある「Northstar California Resort」というスキーリゾート地で開催された。この地には MTB 走行が楽しめる施設が元々備わっており、レンタル用 MTB も充実していた。オフィシャル・ガイドによると本年の出展者数は 91 社となり、大幅減となった昨年 64 社からは回復した。デモ 2 日間の総参加数は不明だが、17 日(月)の来場者は 2,500 名を数えた。

実際に 16 日(日)に会場を訪ねたが、当日は快晴に恵まれ会場内の雰囲気は悪くなかった。現地スキー場のゴンドラで頂上まで人と自転車の運搬が可能であり、ゴンドラ乗り場の前には乗車待ちの列も見られ、参加者が様々なコースの試走を楽しんでいる様子も伺えた。各社の試乗車は、今回のコースに適している通常の MTB とともに E-MTB も多く見られた。欧州同様、米国でも今後 E-MTB がブームとなるのかその動向が大変注目される。



アウトドアデモの様子

4. JBPI 共同出展ブース

本年 10 小間を確保し共同出展を行った。下記図表のとおり、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、(株)本所工研 (HONJO)、(株)ASK TRADING (BOMA)、(株)日東 (NITTO)、(株)インタージェット (INTERJET)、(株)タンゲセイキ (Tange Seiki) 及び(株)マルイ (TIOGA) の合計 7 社の日本企業が共同出展した。

JBPI 共同出展ブースではペダル、ハンドルバー、ステム、泥よけ、ヘッドパーツ、チェーン、サドル及びタイヤ等の部品に加え、カーボン製の完成車/フレーム等も展示され、当ブースは日本の高品質な自転車部品・付属品等が集まる「JAPAN」ブースとして来場者に認知されており、各共同出展者小間では活発な商談等も行われた。

本年の JBPI ブースは、ホール 4 の正面入り口に配置され、同ホール内では最良の位置であったが、アジアコーナーとなったホール 4 自体がメイン会場のホール 1&2 及び 3 からは通路を挟んで少し離れた場所にあったためか、メイン会場に比べホール 4 を訪れる来場者が少なかったのは大変残念であった。今回のアジア専用ホール設置は参加者には分かりやすい半面、ホール毎に来場者数に大きな差が出る結果となり、多くのアジア系出展者が今回のホール 4 の状況には落胆したはずである。海外、特にアジアからの出展者を減らさないために、主催者には何らかの改善策が望まれる。



JBPI 共同出展ブースの様子

図表：2018 年インターバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糞谷 1738 http://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)本所工研 HONJO	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	泥よけ
(株)ASK TRADING BOMA	〒341-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820 048-951-5821	カーボン製自転車、 フレーム等
(株)日東 NITTO	〒334-0013 川口市南鳩ヶ谷 3-23-7 http://nitto-tokyo.sakura.ne.jp/index-E.html	048-286-7771 048-286-1265	ハンドルバー、ステ ム、シートポスト等

(株)インタージェット Interjet	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 2-7-38 新大阪西浦ビル http://interjet.co.jp/	06-6393-3611 06-6393-3822	チェーン、完成車
(株)タンゲセイキ Tange Seiki	〒590-0941 堺市堺区車之町西 1-1-26 http://www.tangeseiki.com/index.php/1	072-224-9990 072-224-9991	ヘッドセット、BB 等
(株)マルイ TIOGA	〒650-0024 神戸市中央区元町通 4-6-24 http://www.tiogausa.com	078-382-0221 078-371-2106	タイヤ、サドル

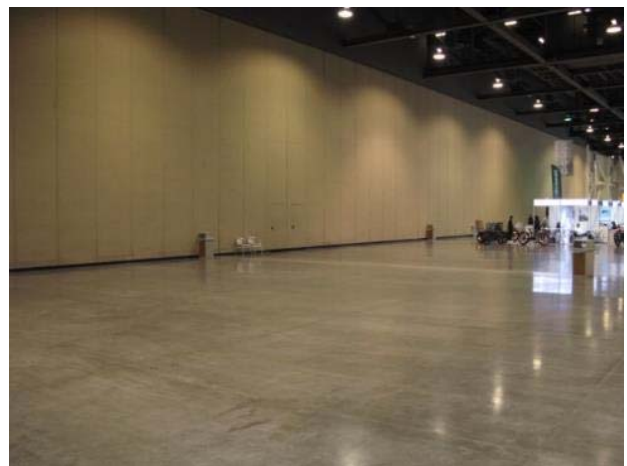
5. 移転の成否

リノはラスベガスに次ぐネバダ州第2の都市であり、カジノを中心とした産業の観光地として国際展示会を受け入れる設備は整っていたが、実際に現地を訪れると米国の小さな地方都市といった印象であった。インターバイク展は北米市場向けのビジネスショーとして現在も重要な位置を占め、他に代わるものも今のところ見当たらない状況であるが、年々出展者や来場者が減少し、本展自体が国際展から米国西部地域向け国内展へと変貌してしまう可能性も否定できない。一方で今回は展示会場とホテルを結ぶシャトルバスを複数経路用意する等、参加者の利便性を考えた点は評価できる。しかしながら、早くもラスベガス開催を懐かしむ声もどこからか漏れ聞こえ、今回の移転の成否については、まだ初回で判断するのは時期尚早かもしれないが、残念ながら疑問が残る結果となってしまった。

次回 INTERBIKE2019 は、2019年9月17日(火)～19日(木)の3日間の本年同様リノにて開催予定である。また、アウトドアデモは展示会前の同年9月15日(日)と16日(月)の2日間、開催予定である。



ホール4の様子



ホール内に広がる空きスペース

以上

※写真はすべて筆者撮影（同展メディア登録済）